

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器がん検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会において各県単位に「協議の場」を設置する申し合せにより発足し、34年が経過した。

発足以来、県内における老人保健法（昭和57年度～平成19年度）および健康増進法（平成20年度～）に基づく消化器がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協力を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、消化器がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会が発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第82回協議会 平成28年7月12日（火）
- (2) 第83回協議会 平成29年2月21日（火）

2. 幹事会の開催

- (1) 第101回幹事会 平成28年6月21日（火）
- (2) 第102回幹事会 平成29年1月17日（火）

3. 研修会

日 時：平成29年2月21日（火）

演 題：「学会胃X線読影判定区分の理解」
～アトラス発刊に向けた症例解説～

講 師：公益財団法人宮城県対がん協会 がん検診センター
副所長兼消化器担当科長 加藤勝章先生

4. 技術部会

- (1) 第1回 平成28年5月18日（水）
- (2) 第2回 平成28年8月24日（水）
- (3) 第3回 平成28年11月16日（水）
- (4) 第4回 平成29年2月15日（水）

5. 学術大会への協力

大会名称：一般社団法人日本消化器がん検診学会関東甲信越支部
第48回放射線研修委員会学術集会

メインテーマ：「がん検診Next Stage“X線と内視鏡の共生”」

日 時：平成29年3月11日（土）

会 場：はまぎんホールヴィアマーレ

神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会名簿

| | |
|--------------------------|--------------|
| 副会長(会長代行) | 小林 理 |
| 横浜市立市民病院がん検診センター | 検診担当部長 石山 暁 |
| 川崎市立井田病院がんセンター | 佐藤 康明 |
| (公財)逗葉地域医療センター | 施設長 河村 攻 |
| (医)松英会 | 理事長 寺門 節雄 |
| (財)京浜保健衛生協会 | 理事長 矢作 淳 |
| (医)倉田会 メディカルサポートクリニック | 院長 宗像 覚 |
| 神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター | センター長 中安 邦夫 |
| (財)神奈川県労働衛生福祉協会 | 会長 西平 浩一 |
| (公財)神奈川県結核予防会 | 専務理事 浜辺 浩章 |
| (公財)神奈川県予防医学協会 | 代表理事 土屋 尚 |
| 厚木市立病院 | 病院長 山本 裕康 |
| (医)社団相和会産業健診事業部 | 理事長 土屋 敦 |
| (医)藤順会藤沢総合健診センター | 理事長 石井 敏和 |
| 相談機関 | |
| 神奈川県保健福祉局保健医療部がん・疾病対策課 | 課長 佐々木つく巳 |
| 神奈川県医師会 | 副会長 池上 秀明 |
| 神奈川県医師会 | 理事 笹生 正人 |
| | 平成29年7月18日現在 |
| | (事務局 新保 文樹) |

子宮がん車検診実施検討会

子宮がん車検診実施検討会（以降、検討会）は、精度管理向上を目的とし昭和46年度にスタートした。

検診車による子宮頸がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村から委託事業として、当協会が検診車を配車し、細胞診断、結果報告を行っている。

検討会には、検診に協力していただいている北里大学、東海大学、横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、日本医科大学武蔵小杉病院、相模野病院、その他の医療機関の産婦人科の医師及び神奈川県立がんセンター婦人科腫瘍専門医師が参加し、車検診のデータの検証、発見症例の再検鏡や再検証・検討を実施し、精度管理の維持向上に役立てると共に、実務上必要な情報交換を行っている。

平成28年度の検討会では、前年度のデータ等の報告と前年度の検診で発生した事象について経過報告を行い情報を共有した。

検討会で報告・検討された内容については、神奈川県産科婦人科医学会の代表医師に対しても報告している。

(事務局 佐藤 光宣)

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

本研究会は、消化器内視鏡技師、その仕事に携わる人々を対象に、お互いの知識・技術の向上をめざし日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、昭和大学藤が丘病院 消化器内科 准教授 長浜 正亞先生に世話人をお願いし下記の通り行われた。

第36回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成28年 4月24日 (日)

会 場 (財)横浜市教育会館

世 話 人 昭和大学藤が丘病院

長浜 正亞先生

技師世話人 藤森 弘樹

内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会

一般演題 6題

特別講演 知っておきたい内視鏡検査・治療時の循環動態

パネルディスカッション 内視鏡室の安全対策を考える
「特別講演」では、関東内視鏡技師会長 臨床検査技師の並木 薫先生から、スクリーニング検査だけでなく治療内視鏡が多く普及し、また患者様も高齢化が進んでいる現状から、検査負荷による急変等に備えて、介助者として携わる技師も基本的な循環動態の正常と異常の区別ができるよう分かり易く心電図の波型など解説していただいた。

「パネルディスカッション」は、「安全」をテーマに検査中・検査後の患者の安全。内視鏡機器の洗浄・消毒。スタッフ間の連絡ツールとしてインカムと試験導入をした結果などが発表された。

来年度に向け技師会の役員改正を実施。これに伴い、事務局は横須賀共済病院へと移管した。

顧問 (五十音順)

- 青木 誠孝 青木医院
- 木田 光弘 北里大学病院
- 今泉 弘 北里大学病院
- 高橋 寛 昭和大学藤が丘病院
- 長浜 正亞 昭和大学藤が丘病院
- 峯 徹哉 東海大学病院
- 山川 達郎 帝京大学溝口病院
- 伊東 文生 聖マリアンナ医科大学病院
- 安田 宏 聖マリアンナ医科大学病院
- 生沢 啓芳 あいクリニック
- 南 康平 丹羽病院

役員

- 青地 広美 横浜市立大学医学部付属市民総合医療センター
- 片野早江子 聖マリアンナ医科大学病院
- 佐藤 和夫 神奈川県労働福祉協会
- 富田 美穂 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
- 鈴木 瑞穂 松島クリニック
- 谷合 幸乃 横浜市こども青年局
- 高木ちなつ 藤沢湘南台病院
- 納所けい子 神奈川県予防医学協会
- 花木由香里 湘南平塚看護専門学校
- 平井 弘子 東名厚木病院
- 藤森 弘樹 昭和大学藤が丘病院
- 石渡 美和 横須賀共済病院
- 星野 珠美 横須賀共済病院
- 桑井 真也 横須賀共済病院
- 三浦 美保 北里大学東病院
- 荻野 和広 東海大学病院
- 松永 和也 東海大学八王子病院
- 山本 松男 大和徳洲会病院
- 志賀 拓也 日本鋼管病院
- 高島 好恵 小田原市立病院
- 渡辺 朋子 菊名記念病院
- 田中 大夢 NTT東日本関東病院

(事務局 納所けい子)

地域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されている。昭和53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施した。

その後、昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会 (現会長・福田護 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長) が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が逐行されている。

同連絡会は「神奈川県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会 (会長・福田護 (同上)、事務局:神奈川県保健福祉局)」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されている。

また、同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請している。

そして追跡調査の結果は、毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川県乳がんの検診実態把握と精度向上に努めている。

2、会員 (敬称略: 順不同・平成28年 8月 1日現在)

会長 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック 院長 福田 護

〈医療機関名〉

- 横浜市立大学医学部一般外科 利野 靖
- 昭和大学藤が丘病院 松宮 彰彦
- 横浜南共済病院 松川 博史
- 聖マリアンナ医科大学病院 津川浩一郎
- 藤沢市民病院 仲野 明
- 藤沢湘南台病院 田村 功
- 茅ヶ崎市立病院 山田 顕光
- 平塚共済病院 谷 和行
- 小田原市立病院 小山 隆史
- 山近記念総合病院 久保田光博
- 秦野赤十字病院 蓮尾 公篤
- 東海大学病院 徳田 裕
- 東海大学大磯病院 島田 英雄
- 伊勢原協同病院 飯尾 宏
- 平塚市民病院 金井 歳男
- 海老名総合病院 萩原 英之
- 東芝林間病院 竹中 晴幸
- 相模台病院 坂本いづみ
- 湘南記念病院 土井 卓子
- 東名厚木病院 日野 浩司
- 川崎市立井田病院 麻薙 美香
- 横浜市南部病院 福島 忠男
- 北里大学病院 塚本 秀人
- 神奈川県立足柄上病院 米山 克也
- 国立病院機構相模原病院 井上 準人
- 国際医療福祉大学熱海病院 田邊 浩悌

(事務局 山本 寛典)

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣
(川崎市立多摩病院)

◎平成28年度の活動状況

《第54回研究会・第31回超音波研究会》

開催日時：平成28年7月23日(土) 14:00~18:00
会 場：神奈川県警友会けいゆう病院 13階大会議室
1. 「若年乳がん患者の妊孕性温存に関する話題」
聖マリアンナ医科大学産婦人科学 鈴木 直先生
2. 「乳腺超音波：症例検討」
東海大学医学部付属病院 小柳紀子先生
3. 「ソフトコピー施設認定の実際」
聖マリアンナ医科大学附属研究所B&I先端
医療センター附属クリニック 後藤由香先生
参加者：78名

《第1回マンモグラフィポジショニング研修会》

開催日時：平成28年8月6日(土) 14:00~17:00
会 場：神奈川県予防医学協会
1. 「マンモグラフィの基礎」
神奈川乳房画像研究会 世話人 後藤由香
2. グループ実習+臨床画像評価
参加者：11名

《第55回研究会・第32回超音波研究会》

開催日時：平成28年11月12日(土) 14:00~18:00
会 場：国際親善総合病院
1. 「技師も知っておきたいシリーズぜひ臨床検査技師の方に見て聞いてほしい~マンモグラフィ読影のポイント~」
神奈川乳房画像研究会 高橋貴子
2. 「マンモグラフィの超音波検査の総合判定について」
横浜南共済病院 乳腺外科部長 加藤直人先生
3. 「基礎的な症例検討」
埼玉県立がんセンター 病理診断科部長
黒住昌史先生
参加者：57名

《神奈川県医師会主催マンモグラフィ撮影技術講習会》

開催日時：平成29年1月28日・29日
会 場：横浜市民病院がん検診センター
参加者：50名

横浜市乳癌検診二次読影会 毎週3回
世話人会開催

H28年6月15日 19:00~20:00
8月24日 19:00~21:00
10月5日 19:00~21:00
12月7日 19:00~21:00

H29年2月16日 19:00~21:00 計5回
(事務局 見本喜久子 鎌田衣珠美)

ピンクリボンかながわ

「ピンクリボンかながわ」は、乳がんの早期発見・早期治療をめざして、認定NPO法人乳房健康研究会と共に、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的とした活動に平成18年度から取組み、11年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。

各団体との連携による主な活動としては、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。また、小規模の催しには、乳房模型の貸出しや自己触診方法が載ったリーフレットの提供による活動支援も行っている。

公共交通機関・湘南モノレールとのコラボ企画として、乳がん検診推進運動と連携し、全国で唯一の鉄道車両ネーミング「ピンクリボン号」が運行開始した。車体を「ピンクリボンかながわ」のりボンでラッピングし、ヘッドマークを「ピンクリボン号」として運行し、車内には啓発活動ポスターを掲示した。普段は乳がん検診に関心のない方にも自然に見ただけのように工夫されている。

横浜市水道局では、ピンクリボンかながわコラボによる「ピンクリボン缶」は、備蓄年数を拡大した災害時の飲料水7年保存500ml「横浜水缶」の作製は4年目になる。

更に、神奈川県内広域水道企業団でも5年備蓄350mlの「やまなみ五湖のブレンド水」とのコラボの「ピンクリボン缶」が作製され3年目になる。災害に備え、健康にも備える。備えることの大切さを多くの方々に伝えた。

企業の活動支援として、キリンビバレッジ・バリューベンダーのピンクリボン自販機や、ダスキンのピンクリボン支援マットにより日常生活に密着した啓発活動となっている。

平成28年度は、県内市町村や企業等のイベントや講習会、研修会へ延べ40団体49日間、協力参加した。本会としての主活動は、9月22日に、「ピンクリボンかながわ2016」として神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携したイベントを横浜公園、日本大通で予定していたが、雨天のため中止となった。

9月23日~25日には、横浜ベイブリッジ、横浜市開港記念会館、横浜マリントワー、象の鼻パークのスクリーンパネル等8ヶ所をピンク色のライトアップを行なった。

〈役員〉

- 代 表 土井 卓子
(湘南記念病院乳がんセンター長)
- アドバイザー 青野 智子
為行 勲
- 監 事 高木富美子(乳房健康研究会)
- 事務局 長 野口 正枝(神奈川県予防医学協会)
事務局員 7名
ボランティア登録90名
(協会職員・協会OB・外部応援者等)
(事務局 野口 正枝)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する支援として、精度の向上、適正な事業の運営等、共通の諸問題を協議検討すると共に労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成28年度の会員機関は15機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成28年度活動状況

第1回協議会（平成28年9月12日）

1. 神奈川県労働局からの連絡事項
 - ・平成27年度労働衛生行政のあらまし
 - ・第67回全国労働衛生週間について
 - ・「職場の健康診断実施強化月間」の実施について
 - ・労働安全衛生法等に基づく各種健康診断の実施状況に関する調査について
 - ・労働安全衛生法に基づくストレスチェックの実施状況に関する調査について
2. 講演

テーマ：「法令・裁判例に基づく職場のメンタルヘルス」
～適正な対応のための法的基礎知識～

講師：安西法律事務所 弁護士 荻谷聡史先生
ストレスチェックが法制化され、職場におけるメンタルヘルス対策が、より重要になってきている。職場のメンタルヘルスが法的に問題になる局面、長時間労働とメンタルヘルス、精神疾患を発症した者の休職・復職・退職（解雇）をめぐる法的留意点、産業医が訴訟の当事者になった事案、心理的負荷による精神障害の認定基準など、実際の裁判例をもとにメンタルヘルスにおける留意点や問題が生じる前、また、生じた後の対策などを解説頂いた。
3. 情報交換
 - ・採血におけるトラブル発生状況とその対応

第2回協議会（平成29年3月29日）

1. 神奈川県労働局からの連絡事項
 - ・治療と仕事の両立について
～患者の現状とニーズ及び課題と対応～
 - ・労働安全衛生法に基づくストレスチェック実施状況調査結果
 - ・労働安全衛生法に基づく各種健康診断実施状況によって把握した各種健康診断実施機関・団体一覧表
2. 講演

テーマ：「今後の産業医制度」
～検討会報告書と安全衛生規則改正～

講師：労働衛生コンサルタント事務所オークス 所長 竹田 透先生

平成28年12月に「産業医制度の在り方に関する検討会報告書」が公表された。平成29年3月には労働安全衛生規則の改正や産業医研修内容に関する厚生労働大臣告示の改正が公示され、産業医巡視の頻度のルール変更、産業医に対する長時間労働を行った労働者についての情報提供、産業医の治療と職業生活の両立支援への取り組みについて、検討会の内容が反映されている。検討会ではこの他にも産業保健活動の取り組みに関して議論が行われており、改正項目に加え今後の産業保健活動の方向性について、実際に委員として検討会に参加した実感をもとに解説を頂いた。
3. 情報交換
 - ・ストレスチェックについて（法施行後1年を経過して）

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(公財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (一財)京浜保健衛生協会
- (公財)結核予防会 神奈川県支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (財)労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院健康管理センター
- (公財)大原記念労働科学研究所
- (医)社団 日健会 日健クリニック
- (医)社団 相和会 産業健診センター
- (社)衛生文化協会 城西病院
- (財)逗葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会
- (医)社団 同友会

平成29年3月31日現在
(事務局 雨宮 徹)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している健康保持増進サービス機関で組織されている。

その目的は、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

昨今の高年齢労働者の増加、急速な技術革新の進展等の社会経済情勢の変化、労働者の就業意識や働き方の変化、さらには業務の質的变化等に伴い、定期健康診断の有所見率が増加傾向にあるとともに、仕事に関して強い不安やストレスを感じている労働者の割合が高い水準で推移している。

THPでは、個人の生活習慣を見直し、若い頃から継続的で計画的な健康づくりをすすめることで、働く人がより健康になることを目標にしている。

労働者の働く職場には労働者自身の力だけでは取り除くことができない疾病増悪要因、ストレス要因などが存在しているので、労働者の健康を保持増進していくためには、労働者の自助努力に加えて、事業者の行う健康管理の積極的推進が必要であり、継続的かつ計画的に心身両面にわたる積極的な健康保持増進を目指すことが重要である。

THPスタッフが、事業所内にいない場合には、企業外から支援できる機関を活用していただきたい。

(事務局 北見 護)

肺疾患検討会

160回に及んだ「肺疾患検討会」を了えるに当って

平成28(2016)年11月29日をもって、昭和57(1982)年より44年間続いた本検討会を閉じることになりました。この間、横浜市立大学をはじめ多くの県下、市中の基幹病院の胸部疾患、外科、内科を問わず御支援、御協力を戴いたことに改めて感謝を申し上げます。発足に当たっては当時、横浜市民病院外科部長の今は亡き池田典次先生から“肺疾患のConference”をやってはどうかという提案があり、周囲には丁度該当するような会がなかったことから筆者が世話人となり、場所を神奈川県予防医学協会の放射線科の一室にて、年5回程度の症例検討をスタートさせることにしました。とくに肺の疾患を対象とするには、内科、外科といった科別を越えて疾患を理解することが大事であると考え、症例の呈示するしないに拘らず病理医、放射線科医の参加を戴いていた経緯もあります。しかし回を重ねると次第に限定された内科、外科各系の呈示が主役になってくることやむをえず、それでもお互いの分野での了解のもとに続けてこられたのは有難いことでしたし、とくに毎回筆者が世話役を務めることから症例呈示の依頼に対しては快く御引き受け下さった諸先生方には会を閉じることは心苦しい限りでした。どの症例を思い返しても定形的な読影で臨床経過が進むとは限らず、若い医師の訓練として時間を費やして読影しても会の進行として満足しうるものではないので、読影を謎解きのようにはしないように考えていました。

160回というと、毎回の呈示症例が5～6例として総計1,000例に達しますので、これら症例は診断上、治療とくに手術方針からも苦勞された大変貴重な症例ばかりなので症例集の編纂も考えましたが、余りにも症例が多岐多様に亘りすぎて断念せざるを得ませんでした。ここでこの会の全体としての印象を纏めてみます。まず休会としたのは3回だけで、1回は昼からの大雪によるものでした。また34年の年月の経過と共に参加者の顔ぶれも当然、変化し第二世代、第三世代と云うべき若手医師が多数を占めるようになってきたことは今後の呼吸器疾患をライフワークとするか、あるいは一時的にでも関心を持つ世代がみられます。これには指導者を有する各基幹病院における研修医制度が定着してきているのが実感でき、将来の呼吸器・肺疾患分野での発展に心強さも感じました。またこの会を運営していくために当日の受付、通知、記録等には中外製薬株式会社が横浜支店の総力を挙げてご協力を戴いたのは継続のための不可欠のご尽力でした。また開催場所が毎回同じであったことから、神奈川県予防医学協会の放射線技術部の諸氏諸嬢には会場の設営その他御世話になったことに御礼申し上げます。中外製薬株式

会社についてさらに付言すれば、御社は本邦に於いては癌免疫療法では“OK-432(ピシバニール)”の開発と普及に早くから力を注がれ、五生率の観察を本会の会員による共同研究を行い、アジア・太平洋肺癌学会(シンガポール)に於いて報告したことも記録に残る業績であることも付記させていただきます。別表は症例呈示を戴いた施設及び科名の一覧表で、特別講演を戴いた施設名も含まれています。また施設の名称が変更になった時は両方が出ています。(例)県立成人病センター；県立がんセンター。また旧名で病名呈示の時は旧名のみ記載されています。

(呼吸器検診部部长 井出 研)

表 症例呈示を受けた施設名(含旧名)

| | | |
|----|--------------------------------|------------------|
| 1 | 横浜市民病院 | 外科 |
| 2 | 横須賀市立市民病院 | 呼吸器内科 |
| 3 | 神奈川県立成人病センター (現・県立がんセンター) | 放射線科 (内科・放射科) |
| 4 | 横浜市立大学医学部病院 | 第1内科・第1外科 |
| 5 | 神奈川県立長浜病院 (現・県立循環器呼吸器病センター) | 呼吸器内科 (呼吸器内科) |
| 6 | 大船共済病院 | 外科 |
| 7 | 川崎協同病院 | 内科 |
| 8 | 藤沢市民病院 | 呼吸器内科 |
| 9 | 汐田病院 | 内科 |
| 10 | 健仁外科 | 外科 |
| 11 | 済生会横浜市南部病院 | 中央検査室 |
| 12 | 横浜市立大学医学部* | 第1病理 |
| 13 | 国立横浜病院 | 内科・外科 |
| 14 | 横浜栄共済病院 | 外科 |
| 15 | 聖マリアンナ医科大学 | 第3外科 |
| 16 | 国立相模原病院* | (呼吸器内科) |
| 17 | 聖マリアンナ西部病院 | 呼吸器内科 |
| 18 | 日本喀痰研究所* | |
| 19 | 県立厚木病院 | 内科 |
| 20 | 高座病院 | 外科 |
| 21 | 大船中央病院 | 呼吸器科 |
| 22 | 埼玉医科大学病院* | 放射線科 |
| 23 | 済生会神奈川県病院 | 外科 |
| 24 | 横浜市立大学附属市民総合医療センター | 第一外科 |
| 25 | 横浜市立大学木原研究所* | 細胞学部門 |
| 26 | 横須賀共済病院 | 胸部外科 |
| 27 | 茅ヶ崎市立病院 | 内科 |
| 28 | 東京医科大学* | 第一外科 |
| 29 | 横浜労災病院 | 呼吸器外科 |
| 30 | 社保横浜中央病院 | 外科 |
| 31 | 神奈川県予防医学協会中央診療所 | 呼吸器検診部 |
| 32 | 聖路加国際病院* | 呼吸器科 |

*印は特別講演

禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議 (旧禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議)

平成11年11月5日設立発足した本会（当初名称：禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議）は着実な活動を展開し、県内における禁煙・受動喫煙防止に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

平成28年度総会、理事会を経て、会の名称を変更した

平成29年4月29日中山脩郎会長死去により、6月3日の総会で中沢明紀会長代行が就任した

28年度活動内容

I 会議

- (1) 総会 6月4日
- (2) 理事会 5回

II 事業

1. 講演会 6月4日

《講演1》

「たばこ対策研究会の活動とデータの収集・分析による喫煙の影響について」

保険者機能を推進する会「たばこ対策研究会」
代表 木村 隆

《講演2》

「高校生の喫煙防止教育のあり方について」
平塚農業高校養護教諭・本会理事 松山長子
《特別講演》

「東京五輪・パラリンピック開催へ向けて受動喫煙防止法の制定を」

参議院議員 松沢成文

2. 禁煙・受動喫煙防止講演会、禁煙セミナー
地域、学校、職域、医療関係への講師派遣
120回
3. かながわ卒煙塾 講師協力
4. かながわ卒煙サポートセミナーへの協力
5. イベントへの参加
港南区世界禁煙デーイベント等9回
6. 関連会議への協力・参加
かながわ健康プラン21推進会議等
7. 提言書等の提出
「県条例」見直し検討会への意見陳述書提出
と意見陳述、等3件
8. メーリングリスト（ML）の運営
9. ホームページの運営

役員の構成（平成29年6月3日現在）

会長代行 中沢明紀（神奈川県立循環器呼吸器病センター所長）

副会長 松井克之（神奈川県歯科医師会副会長）

〃 高堂 正（神奈川県薬剤師会理事）

会計、監事、理事 39名

（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等）

（事務局 栗原 博）

スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守る目的で「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月1日より施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するため、民間と行政が相互に理解と協力のもとに対策を推進し、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けている。

（スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です）

設立呼びかけ人

公益社団法人神奈川県医師会
一般社団法人神奈川県歯科医師会
公益社団法人神奈川県薬剤師会
公益社団法人神奈川県病院協会
公益社団法人神奈川県看護協会
神奈川県

28年度活動内容

1. 「イベント・シンポジウム開催」事業
 - (1) 受動喫煙防止県民向けイベントへの協力
11月23日 クィーンズスクエア
 - (2) 受動喫煙防止キャンペーンへの協力
5月31日～6月6日 横浜開港記念バザー
2. 「広報普及啓発」事業
3. 「未成年者等喫煙防止教育」事業
4. 「スモークフリー・サポーターズ・クラブ」事業

運営委員会（平成29年9月15日現在）

委員長 笹生 正人（神奈川県医師会理事）

委員 鶴見 博貴（神奈川県歯科医師会理事）

〃 金子 弘之（神奈川県薬剤師会理事）

〃 吉田 勝明（神奈川県病院協会副会長）

〃 尾花由美子（神奈川県看護協会常務理事）

〃 中澤よう子（神奈川県保健福祉局技監兼
保健医療部長）

（事務局 栗原 博）

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し42年目を迎えた。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 調査研究

①学校現場と腎疾患医療分野の連携を図るため、川崎市立学校児童生徒腎疾患対策会議にて講演と質疑を実施。

責任者 生駒 雅昭

(本会幹事・聖マリアンナ医科大学病院 客員教授)

日 程 平成28年5月2日(月)

会 場 川崎市教育会館

演 題 「川崎市児童生徒腎疾患検診 川崎市の現状」

参 加 川崎市内小・中・高等学校、特別支援学校養護教諭 109名

②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握。

責任者 高橋 英彦

(本会幹事・こども医療センター 腎臓内科)

日 程 平成29年2月4日(土)

会 場 神奈川県総合医療会館 4階第1会議室

協議事項・各地区現状報告と検討

参 加 11地区担当 7名

II 運営委員会

責任者 新村 文男

(本会会長・東海大学病院医学部小児科准教授)

日 程 平成28年6月1日(木)

会 場 神奈川県予防医学協会7階役員室

参 加 運営委員 7名

III 総会および研究会他

日 程 平成28年10月1日(土)

会 場 神奈川中小企業センタービル13階 第1会議室

・役員会 14:00-

・総 会 15:00-

・医師部会研究会 15:30-

演 題 「小児のIgA腎症の長期予後」

講 師 国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ
膠原病科 亀井 宏一先生

参加人数 28名

IV 定例研究会

日 時 平成29年2月4日(土) 15:00-

会 場 神奈川県総合医療会館 1階会議室AB

講 演

演 題 1 「学校検尿の流れについて

—検査室で行なっていること—

講 師 (公財)神奈川県予防医学協会

臨床検査部次長 坂牧 真盛

演 題 2 「小児の排尿症状の診方、考え方」

講 師 自治医科大学 とちぎ子ども医療
センター小児泌尿器科教授
中井 秀郎先生

参加人数 38名

V 知識普及活動

1. 「2016年度 腎(じん)38号」の発刊(1,750部)
2. ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

◎ホームページでの各研究会のお知らせならびに参加申込の実施

(事務局 佐藤 光宣)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加人数

4月23日、自閉症を体験～壁を壊し半径5mを変える!

～、西内 裕二(特定非営利活動法人ADDS)、9人

5月21日、生きるための心を育てる教育、渡會 睦子(東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授)、8人

6月25日、シンポジウム&トーク「学校健診を振り返って-学校保健安全法の改訂にあたって」、8人

7月16日、養護教諭だから出来る学習と発達の支援、有本 典文(横浜国立大学教育人間科学部教授)、14人

9月10日、少年をなぜ守れなかったのか、新倉アキ子(帝京大学専門職大学院客員准教授・元神奈川県警少年相談保護センター所長)、14人

10月29日、発達障害を疑う前に・先生方のためのメンタル・ビジョン(視覚)トレーニング、井上 雅裕(目の学校・本厚木校代表 心理カウンセラー)、15人

11月12日、多様性を認め子どもの自己肯定感を高める～クラスに1～2人はいるかもしれないLGBT～、星野 慎二(特定非営利活動法人SHIP代表)、11人

12月10日、保健指導に活かすコミュニケーション技術、大島 武(東京工芸大学芸術学部基礎教育教授)、16人

29年

1月14日、アトピー性皮膚炎と学校感染症、小森田 美穂(独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院 皮膚科医長)、9人

2月27日「日常に活かすヨガ」～心と体の疲れを癒し、保健室でも応用できる～、村上 華子(ヨガインストラクター)、10人

3月25日、施設見学会 科学技術館

2、夏期講習会

日 時：平成28年8月3、4日

テーマ：変化の中でも子どもたちに寄り添って～いのちを生きる～ 参加者数(延べ)：116人

3日 インクルーシブ教育をめざして 養護教諭が明日してみたいくなる支援・丹野 節子(「きらっと」たんの個別支援教室主宰)

4日 子どもたちを取り巻く性と生・早乙女 智子(産婦人科医)

今すぐリセット! 疲れない、老いない身体を手に入れる・藤本 靖(ボディワーカー、身体論者)

会員状況

小学校9人、中学校9人、高校1人、大学・短大3人、

その他6人、計28人。非会員の例会参加 25人(延べ)。

役員(順不同、敬称略、平成29年3月31日現在)

会 長 鈴木 晴美

副 会 長 藤沢 恵子(横浜市立川上北小学校)

幹 事 平山 京子

後藤 和泉(秦野市立東中学校)

角田美桜子(厚木市立荻野中学校)

大塚 弘枝(川崎市立玉川小学校)

藤部 佳子(玉川学園小学校)

藤井 基子(川崎市立日吉小学校)

矢島 久美(鎌倉市立腰越小学校)

大矢 暢子(湘南白百合小学校)

監 事 中川 優子(藤沢市立鶴沼中学校)

工平 きん(横浜市立勝田小学校)

(事務局 船崎 隆文)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（公社）日本作業環境測定協会会員により設立。

現在、支部の会員は、自社1、機関27、測定士30の計58会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の連携強化を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成28年度は、全国作業環境研究発表会をはじめとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

(1) 支部会議

- ①総会1回 ②理事会3回
③技術専門委員会7回 ④機関全体集会1回

(2) 本部会議

- ①支部長会議2回

事 業

I. 技術研修会

(1) 第1回技術研修会 (28.5.17)

作業環境測定と改善の歴史
労働安全衛生コンサルタント 沼野 雄志氏

(2) 第2回技術研修会 (29.2.17)

- I. 最近の法令改正について
神奈川労働局労働衛生専門官 松本 進吾氏
II. 労働衛生保護具について (実技を含む)
神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏

(3) 第3回技術研修会 (29.3.2)

事業場見学会：住友重機械マリンエンジニアリング(株)
横須賀造船所

II. 作業環境測定推進大会 (28.9.18)

- ①最近の労働衛生行政の動向
神奈川労働局 健康課長 広田 光彦氏
②本部主催野総合精度管理のまとめについて
(公財)日本作業環境測定協会 米山 玲児氏
③職業性呼吸器病疾患について
北里大学医学部名誉教授 相澤 好治氏

理事・技術専門委員名簿

1. 理事会

支部長 梅田 忠明 (神奈川県労働衛生福祉協会)
理 事 井澤 方宏 (神奈川県予防医学協会)
高橋 正一 (オオスミ)
稲葉 英樹 (住友重機械エンバイロメント)
望月 速人 (山梨厚生会)

オブザーバー
広田 光彦 (神奈川労働局健康課長)

2. 技術専門委員

委員長 芦田 敏文 (神奈川県予防医学協会)
高野 広正 (神奈川県労働衛生福祉協会)
沼澤 俊明 (オオスミ)
高松 明弘 (住友重機械エンバイロメント)
岸 康博 (元日産自動車)
堀内 亮介 (山梨厚生会)

オブザーバー
松本 進吾 (神奈川労働局労働衛生専門官)
(事務局・芦田 敏文)